



長野県神社庁報 第122号

平成28年1月1日発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
(長野市箱清水1-6-1 電話026-232-3355 FAX026-233-2720)

申年に新たな飛躍を願う



平成22年寅年御柱

写真提供：諏訪大社

雑録

表紙「建御柱・薙鎌」

日次

1	日誌抄
2	年頭のご挨拶
3	年頭のご挨拶 藤井茂信
3	湯澤廣雄
4	講演「可能性への挑戦」舞の海秀平先生
7	教化部委員会報告 祭祀委員会・教化委員会・調査委員会・ 青少年対策推進委員会・
12	広報編集委員会 神宮大麻暦頒布委員会 御嶽山噴火並びに神城断層被害報告と支援状況 教化部祭祀委員会「神棚の祀り方」 神道を考える 氏子だより
14	神宮大麻頒布表彰 新任神職の横顔
15	御造管フオトニュース
16	寄附者顕彰 辞令
17	平成26年度長野県神社庁歳入歳出決算書／ 災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書
17	謹賀新年
19	子供参宮団のご案内

日誌抄

平成二十七年七月十日

*教：教化部の略

二九日	於 千曲市更埴文化会館 天皇皇后両陛下御奉送 於 軽井沢
三一日	教：教化委員会 於 御嶽神社
二、六日	東海地区中堅神職研修会 (後期) 於 神宮会館
五日	東海地区中堅神職研修 精算会並びに参事会 於 神宮会館
四日	辞令伝達式 神殿例祭
十二日	神報編集委員会 神宮大宮司御招宴
十六日	神宮大麻暦頒布始祭
十七日	神宮大麻暦頒布秋季推進 会議
十八日	神社庁長会
二五日	辞令伝達式 美しい日本の憲法をつく る県民の会実行委員会
二九日	神社庁神宮大麻暦頒布始 奉告祭
八日	理事会
十四、十五日	長野県紅葉会 当番 若一王子神社
十五日	第四四回【初穂曳】
十六日	教：青少年対策推進委員会
二二日	神社本庁定例評議委員会
二二日	人事諮問委員会
二三日	神宮大麻暦頒布委員会
二四日	頒布活動指定神社打合せ
二八日	第七十回長野県神社庁・
二九日	長野県神社総代会連合大会 於 千曲市更埴文化会館
二日	教：祭祀委員会
十日	今こそ憲法改正を！ 武道館 一万人大会 於 日本武道館
十一日	祭祀指導者研修会
十二日	神報編集委員会
十二日	県政婦人連合会総会
十三日	於 諏訪大社下社秋宮 監査会
十三日	東海五県紅葉会 当番 三重県
十七、十八日	誇りある日本をつくる 長野県民大会
二五日	於 東御市文化会館
二七日	教：青少年対策委員会
二、三日	東海五県神社庁長参事会 於 三重県
二、三日	平成二十七年全国教化 会議 於 神社本庁
四日	教化部役員会
五日	神宮大麻暦頒布研修会
六、七日	於 松塩支部 槻井泉神社 第六十一回伊勢神宮 新穀感謝祭
十日	理事支部長合同会議
十七日	辞令伝達式
十七日	支会長会



年頭の辞

長野県神社庁庁長 藤井茂信



謹んで新年の御祝詞を申し上げます。
畏くも天皇・皇后両陛下に於かせられましては、愈々お健やかに日々公務に、御精励遊ばされておいでになられます事は、誠に慶賀の極みに存じます。

年頭に当たり県内各神社の神職、総代、氏子、崇敬者の皆様の御隆昌・御健勝を心よりお祈り申し上げます。昨年中は県神社庁の庁務推進に当たり深い御理解と絶大なる御協力・御高配を賜りまして誠に有難う御座いました。

特に平成二十六年九月二十七日に発生しました木曽御嶽山噴火災害、並びに同年十一月二十二日の県北部神城断層地震により被災した神社に対する義損金に付きましては、県下全神社より一社様当たり金壹千円以上、全神職様より一名当たり金壹万円以上の御厚志をお寄せ頂きました事篤く御礼申し上げます。

予め提出されました各被災神社からの被災報告に基づき、理事支



年頭の御挨拶

長野県神社総代会会長 湯澤廣雄



新年明けましておめでとうございます。
謹んで皇室の弥栄と今上陛下のご健勝、県下神社御社頭の益々のご隆昌をお祈り申し上げます。
さて、改めて昨年を顧みまして学んだことは、私一人では何もできないということです。

昨年来、我々を取り巻く環境はますます変化の激しい時代を迎え、世界情勢だけでなく、日本国内でも難問が山積しております。こうした大変な時代だからこそ、改めて昔からの日本の「家族」「歴史」「伝統」「文化」を見直す時期に来ているのだと思います。次の世代や、百年先、千

部長会の承認を頂き、先頃按分贈呈申し上げました。復旧復興の一助になれば皆様と共に願うところで御座います。

神宮大麻暦頒布につきましては、毎年皆様に格段の御尽力を頂いておりますが、平成六年には、神社本庁主導の増頒布指定制度も相俟って、当時目標としていた壹千万家庭頒布までもう一息の九五三万体制になりましたが、平成七年の大麻初穂料の改訂を境に毎年減体が続いている事は実に残念で御座います。皆様のお力をもって今年こそ増体となりますようお願い申し上げます。

昨年十一月三日に発生しましたバリ同時多発テロは、心が凍るような実に悲惨な事件でありました。ISテロに対処する為にアメリカ、フランス、ロシア等が共同歩調をとる事が出来そうな雰囲気は喜ばしいことと存じます。

敬神生活の綱領第三項の如く、我が国の隆昌と世界の共存共栄とを祈つて参りたいと存じます。

県下各神社の益々の御繁栄をお祈り申し上げまして、新年の御挨拶と致します。

年先の命まで、我々が育ってきた自然環境や歴史や文化をきちんと受け継いでいくためにも、皆さん一人一人の力をお借りしながら「受け継いで来たもの」を見直すことが今求められていると思えてなりません。

オーケストラで言えばコンダクターであり、各パートがそれぞれ個性豊かに最良の音を奏でることができなければ全体として素晴らしい演奏は成り立ちません。

私は会長として先頭に立って演奏を引っ張って参りますが、今後もぜひとも各自が自分の持てる力を最大限に活かして、それぞれのパートにあたる各支部支会でも調和と同時に斯界全体のレベルアップを目指して戴きますようお願い致します。

ご祭神のご加護を受けられ、皆様にとりまして、良き新年でありますよう心から祈念致します。私からのご挨拶とさせていただきます。

諏訪大社御柱予定表

平成二十八(丙申)年 式年遷宮御柱大祭	《上社行事日程》
山出し 四月二日(壬)・三日(日)・四日(月)〔木落し・川越し〕	四月二日~四日 御柱山出し綱渡り式
四月五日 注連掛祭	
四月 古御柱休め清祓	
里曳き 五月三日(火)・四日(水)・五日(木)〔建御柱〕	五月三日~五日 御柱里曳き綱渡り式
五月三日 御柱迎並御柱大祭	
五月四日~五日 建御柱に伴う冠落し並穴埋神事	
五月六日 御柱固祭並御柱曳建終了奉告祭	
六月 本宮宝殿竣工祭	
六月十五日 本宮宝殿遷座祭	
式年造宮御柱大祭終了奉告祭	
《下社行事日程》	
山出し 四月八日(金)・九日(土)・十日(日)〔木落し〕	四月八日~十日 御柱山出し綱渡り式
四月十一日 注連掛山口祭	
四月 古御柱休め清祓	
四月 拝殿幕・白旗奉納奉生祭	
五月十一日 春宮秋宮宝殿算合祭	
五月十三日 春宮宝殿遷座祭	
里曳き 五月十四日(土)・十五日(日)・十六日(月)〔建御柱〕	五月十四日~十六日 御柱里曳き綱渡り式
五月十四日 御柱迎並御柱大祭	
五月十四日~十六日 建御柱に伴う冠落し神事	
五月十七日 御柱固祭並御柱曳建終了奉告祭	
五月 秋宮宝殿遷座祭	
六月 式年造宮御柱大祭終了奉告祭	

誇りある日本をつくる長野県民大会開催される

十一月二十五日に東御市文化会館において「美しい日本の憲法をつくる長野県民の会」主催により、「誇りある日本をつくる県民大会」が開催された。大会の第一部では「美しい日本の憲法をつくる国民の会」より日本の歴史国柄に基づく憲法改正の早期実現に向けたメッセージが寄せられた。第二部では元小結・大相撲解説者の舞の海秀平先生より「可能性への挑戦」の演題で記念講演をおこなった。

記念講演「可能性への挑戦」

元小結大相撲解説者 舞の海秀平先生

本日の講演はほとんどが相撲の話ですが、今の相撲界の状況から我が国の姿が見えてくると日頃感じていました。

◆引退をしてテレビ界へ

私は平成十一年十一月の九州場所の千秋楽の一番で敗れて引退を決意しました。引退後はNHKより相撲解説者のお話が来て民放では夕方のニュースのスポーツキャスターとなり、テレビの世界ではなかなか本音で話をすることはできないことが解りました。視聴率のためにはいろいろ事情のある物事の一面だけが放送されるにすぎません。ですからテレビの僅かな情報だけで世論は間違った方向に行きますし、知らず知らずのうちにテレビの情報で操られてしまうかも知れません。当時



は白鳳の優勝よりも朝青龍の不祥事

に世間の関心が向いました。連日朝青龍の動静が民放で放送されていました。すると大相撲中継はグングン視聴率が上がり大勢のお客さんが詰めかけてくださったのです。この朝青龍ほど大相撲の伝統やしきたりを壊した人はいません。この経済効果に私は複雑な思いをしたものです。

◆スポーツと伝統

大相撲の世界は厳しいのですがおおかさを持つ昔ながらの世界でもあります。最近世間やマスコミでは相撲界をスポーツ界と同じように捉えるように見方が変わってきました。

スポーツでは、階級別とか体重別とか公平公正で同じ条件で戦うことが求められます。しかし相撲取りは自分の二倍三倍の大きさの相手とやり、不公平な条件でも土俵に上がることもあります。

平成十三年夏場所、横綱武蔵丸との優勝決勝戦に横綱貴乃花は前日に大怪我をしました

がそれを乗り越えて優勝しました。当時の小泉首相が「痛みに耐えてよく頑張った！感動した！」と総理賜杯を渡した姿はまさに美しい人情相撲で世間は大いに沸きました。一方の武蔵丸関は、相手の力士生命を終わらせるかもしれないと思い悩んでいたのです。怪我をさせられるより、怪我をさせてしまった方が一生心に傷が残るのです。武蔵丸の姿に私は貴乃花の立場からしか物事を見ていなかったことに気付きました。ハワイからやってきた武蔵丸が日本の大相撲界で修業を積み重ね、日本人独特の義理人情、ものあわれ、人の情けを感じながら横綱まで駆け上がったのだと感銘を受けました。

スポーツでは審判の裁定は覆ることはありませんが、しかし相撲では行司差し違えで勝ちが変わることがあります。また立ち合いで待ったを何回かけても失格になりません。力士同士が阿吽の呼吸を合わせて立ち合いをします。これは相撲の精神に大切なところですが、それでは行司は何故いるのでしょうか。それは、相撲は神事なので神様と力士とのつなぎ役としていなのです。神社の神主さんと同じです。相撲とは伝統文化・伝統芸能でもあり、神事を最も大切にされるものです。そして新しいものも積極的に取り入れました。昭和四十四年には早くもビデオ判定を取り入れています。それにより取り直しになるとお客さんは納得して大喜びします。スポーツは選手がいかに

公平公正に戦うかを最優先にしていますが、相撲は力士の事は後回しにしても、お客さんが納得して楽しむことを最優先に作られています。神事でもあり興業でもある。だからここまで発展してきたのではないかと思えます。

◆天覧相撲

相撲が文献に載りますのは六四三年です。八世紀の聖武天皇の御代に「相撲節会(すまいのせちえ)」で天覧試合がなされ正式な国家儀礼となります。鎌倉時代には武士たちが相撲を取り入れます。ところが室町時代になると相撲は野蛮なものと見なされますが織田信長が上覧相撲を開き消滅の危機を乗り越ええました。江戸時代になると各藩の大名たちが強い力士を召し抱え相撲は活気づきます。明治時代に西洋の文化が流入して再び相撲は野蛮な裸踊りとして逮捕者まで出るまでになりました。これで相撲が終わるかと思いきや明治天皇が天覧相撲を開かれた相撲は見直されます。野蛮な裸踊りから立派な国技になりました。時代で相撲への見方が変わりますが、いろいろなもの融合させながら一四〇〇年を奇跡的に生き延びることができました。そう考えると当時の相撲に携わった人々には先見の明と広い視野があったと思います。古いものを残しながら大胆に改革をしていきました。明治時代に相撲界では鬻を残しました。鬻を結っているから神々しく価値が

あります。鬻によって平成まで続いたと思えます。また大正十四年四月二十九日、のちの昭和天皇が摂政官でいらした時に初めて優勝賜杯が作られ、賜杯にふさわしい組織として財団法人大日本相撲協会を発足させました。昭和天皇は近代相撲界にものごく力になってくださいました。何度も天覧試合にお出ましになり相撲は日本の国技といわれるようになりました。非常に感謝しなければなりません。昭和天皇の大喪の礼に協会の親方力士たちがずぶぬれになりながらお見送りをいたしました。長い歴史の中でも私たちを支えてくれたのは皇室であるのです。

◆相撲界は現代日本の縮図

世界には色々な相撲があります。しかし日本の大相撲のように文化としても芸能としても昇華された物はありません。日本の大相撲は神事を取り入れ日本人の歴史観とか風土とか習慣とか民族性とか私たちのすべてが詰まって現在があります。ただ、離れていくフアンも多いのです。外国の力士が強すぎて面白くないというのです。彼らの目的は大相撲界で早く出世してお金を稼ぎ祖国の両親家族に仕送りすることです。そしてとても親孝行です。ブルガリアから来た琴欧州関は父親が交通事故で働けません。自分が怪我をしても土俵に上がって仕送りを続けます。日本の若い力士は親に仕送りをしてもらっています。朝青龍関は父から「自分の母親を殺した仇だ

と思え」と教えを受けたと聞いた時には日本人は勝てないなと思いました。私たちは平和に慣れてしまっています。最近の日本人の若者は、一年二年やってもだめなら別の仕事を探せばいいやと平気で言います。親も変わってきました。息子が相撲界に入って「強くなるまで帰ってくるな」とは言いません。「ダメになったら帰ってきなさい。我慢することはないからね」と言います。しかし相撲界だけがそうではないのです。いやなところを我慢しながらやっていくのが人生なのですが、学校とか親からそういうことを教わっていないのです。相撲界で起きていることは世の中でも起きているのです。

◆師匠の教え

私は大学を卒業して山形の高校の教師になることが決まっていたのですが、就職二か月前に相撲部の後輩が急逝したのです。死というものに隣り合わせにあることを感じ、これからの人生を自分のやりたいものに挑戦する気が起きました。大相撲の規定では身長は一七三センチ必要なのですが私の身長は、一六九センチしかありません。新弟子検査では頭に髪付け油をてんこ盛りにして臨んだのですが、暑さで髪付け油が溶け出したのと厳格な柏戸親方の不合格となりました。次の検査の五月まで激痛に耐えながらシリコンを頭のでっぺんに入れ続けました。そして二度目の検査で合格をしました。一度目の検査で不

合格になったことを出羽の海親方に尋ねたのですが、せっかく就職が決まっているのに小さな体で相撲界に入って余計な苦勞をしても気の毒だ、やる気があればあきらめずまた相撲界に戻ってくるだろう、という親方の親心でした。また覚悟を試されたことになりました。親方からは「勝って驕るな、負けて僻むな」と礼儀を厳しく教えられました。礼節は大相撲の伝統です。自分のためにだけでなく、親方のため部屋の名誉のために強くなろうと気持ち燃え上がりました。

当時はハワイ勢が隆盛でみな二〇〇キロを超える巨漢です。日本人がどんなに努力しても体重差ではかありません。曙と対戦すればいつも私の両肩に両手が届いてすぐに飛ばされてしまいます。足が弱いとみても足まで辿り着けないわけです。立ち合い後体を小さくする戦法を思いつきました。ついに曙関と対戦することになりました。仕切りを繰り返しているうちに葛藤が生まれ作戦に迷いが出てきました。立ち合いから作戦通り曙の前にしゃがむことができました。次は吊りに来たら足を内掛けに組むことです。予想以上に責めあぐね頭まで使う三所攻めになりました。曙関は吊ろう吊ろうとして体重が踵にかかります。これではどんな大男でも足を掛けられ倒れます。体が大きい相手に怖いという恐怖心にとらわれれば思考が停止してしまいます。体が体重差に僻まず、突き詰めて考えてからこ

そ勝負ができました。

◆憲法改正へ思考を止めないこと

お陰さまで平成十一年十一月の九州場所へ引退できました。頭のシリコンは合格して四日後に水を抜き場所後に切開をして取りました。今でも体調が悪いときは頭が痛みます。しかし何かを犠牲をしなければ何かを得ることができませんので後悔はしていません。また、新弟子検査で百七十三センチ無ければならないと真面目に思っていたら入門できなかったでしょう。何とか合格しようと考えたわけです。この身長でも大きな人を倒すには何とかしようと考え続けました。土俵の上はやるかやられるかの戦場でもあります。一方の見方だけを刷り込まれてしまうといろいろな見方ができずに思考停止になってしまいました。拉致問題にしても、なぜ取り戻すことができないのか最初に立ち返って考えることが必要です。海外の情勢が変わっている中で、私たちは日本の将来をどうするのか、素晴らしい国にするにはどうすればいいのか、自分たちの国柄、伝統、歴史を考えながらも一度作り直す。そのためには憲法をよく考えていかなければならないと思います。そこから我が国が独り立ちできるのではないのかと思っております。

相撲の話ばかりでしたが最後までお聞きいただきましてありがとうございます。

（講演の内容を斤報編集委員会で再構成をして掲載しました。）

教化部委員会報告

祭祀委員会

委員長 豊城憲和

教化部規程によると祭祀委員会が取り組む事業は次のとおりである。

- 祭式、祝詞、雅楽等の研修に関する事項
 - 祭祀神事の振興に関する事項
 - その他祭祀に関し庁長の必要と認る事項
- そこで祭祀委員会としては次の三つの活動計画を立て実施してきた。

一、各種研修の実施

- ① 祭式指導者研究会

神社庁祭式講師及び支部祭式指導者による支部祭式研修会実施についての研究

- ② 雅楽研修会

宮内庁及び神社庁雅楽講師による龍笛、箏、篳篥の研修

- ③ 祭祀舞研修会



神社庁祭祀舞講師による朝日舞、豊采舞の研修

- ④ 浦安の舞研修会

神社庁浦安の舞講師による浦安の舞研修

- ⑤ 祭式指導者養成研修会

皇學館大学教授による祭式指導者養成の研修

二、庁報「神州」への寄稿

平成二十六年正月号「参拝の作法」

同 夏季号「手水」

平成二十七年正月号「神饌」

同 夏季号「修祓」

平成二十八年正月号「神棚のまつり方」

同 夏季号「総代の心得」(予定)

三、氏子総代研修会資料の作成

氏子総代研修会に用いられる祭祀実習資料の作成

最後に、関係各位のご指導並びにご協力に感謝し、心から御礼申し上げます。

教化委員会

委員長 平林秀文

今期、教化部内で役割の見直しが行われ、教養・氏子総代研修会を主たる事業として企画・実施いたしました。

今までの担当が少なくなつた分、委員会で知恵を絞り、それぞれの研修会に創意工夫を加えました。新しい方向性を見いだす

ことが出来たのではないかと自負しております。

教養研修会

- ① 「神社と税務・防犯」(神社庁)

- ② 「山岳信仰を知る」(王滝村・御嶽山登拝)

- ③ 「神社の広報活動」(神社庁)

- ④ 「神事芸能の伝承」(遠山郷・大鹿村等)

①は要望の多かった「税務・防犯」研修。特に現職刑事による賽銭泥棒対策などは内容の濃い講義でした。

②と④は、長野市の神社庁を遠く離れた県境の地で開催いたしました。東西南北に広い信州では、地域が違つるとなかなか訪れる機会のない場所もあります。



②参加者の半数以上が初登頂であった御嶽山。好天に恵まれての登拝、歴史ある禊場・清滝での禊は、生涯忘れ得ぬ経験となりました。

④人口減少に伴う地域社会の弱体化、氏子数の減少など、どこも問題は山積しており、都市部でも他人事ではありません。南信濃の山里で、永い歴史を誇る伝統文化に触れ、神事を未来に継承しようと懸命に努力する人々の姿に、学ぶところは多く、参加者より好評をいただきました。

両研修とも地元の木曾支部・飯伊支部、更に関係神社の皆様に、企画段階よりご助言とご高配を賜り、スムーズな運営ができました。

③は神社新報社社員であった伊藤光森先生(白山社榎宜・上伊那支部)の講義。過去に例が無い一年に二度の教養研修。また、これも初めてとなる冬の半日研修会で少々不安でしたが、参加者多数で安堵しました。

氏子総代研修会

①「社寺建築を読み解く」講師 相原文哉先生

②「神社と雅楽」講師 各地区雅楽会

③「戦前・戦後を生き延びて」

講師 宮田正士先生

①前期委員会の皆様が、苦勞を重ね出版された「社寺建築を読み解く」の著者、相

原文哉先生にご講演をいただきました。

②四地区それぞれ、地元雅楽会の神職が講師を勤め、講義の進め方や内容も各会場で工夫を凝らして戴くという、新しい試み。参加者は四会場併せて九六三名と大盛況でした。

③終戦七十年の節目にあたり、元大日本帝国海軍・宮田正士先生(水無神社名誉宮司・木曾支部)の講演を各地区で伺います。

結びに折に触れご指導を戴いた宇治橋教化部長・武藤担当理事、積極的に事業に取り組んでくださった委員の方々、更に各研修会にご協力を賜り、またご参加戴いた全ての皆様に御礼を申し上げ、活動報告とさせていただきます。

調査委員会

調査委員長 井出行則

今期の調査委員会では、二つの調査を行うこととし活動してまいりました。それは、一、浦安の舞奉奏状況について、一、神社ののぼり旗について

の調査です。一年目は、調査表の作成に費やされました。その際、最も留意したのは、調査の回答率を上げることでした。その為浦安の舞の調査では、一次調査と二次調査に別けて行うこととしました。また、二種の調査表を宮司宛に直接送付しました。

浦安の舞の一次調査では、現在奉納されているかまたは以前に奉納されていたのかを調査しました。その結果を元に、二次調査では、現在奉納されている詳細と、やめてしまった場合の理由を答えていただきました。この調査では、担当委員が、郵送のみでなく、直接電話を使って宮司に回答いただいたことで、ある程度実態に近い調査となつたのではないかと思います。結果については、今後庁報等に公表してまいります。

のぼり旗の調査は、約四百社の神社より回答が寄せられました。データとして残していくための作業を行うとともに、地域の傾向を把握するため一覧表の作成にとりくんでおります。特に珍しい旗については、何らかの形で発表したいと考えております。結びに調査への御協力の感謝を申し上げます。報告といたします。

青少年対策推進委員会

委員長 等々力良晴

初年度・二年度前半の活動は、前号迄に報告済みですので、後半の事業につき記載いたします。

①子供参宮団

三月二十四・二十五日の二日にかけて第二十四子供参宮団がバス三台分の九十九名



の参加者で行われました。

平成六年より行われている重要な事業が本年二十回目を向かえ、諸先輩方が活動された重みを感じ、参加の子供達に思い出となる良き研修とするべく計画を進めました。

本年は一日目に外宮参拝、内宮神楽奉納・御垣内参拝を行い、夜には神宮司庁よりの御提案を頂き夜間内宮参拝を行いました。

そして次世代を担う子供達に長野県と神宮また式年遷宮の繋がりを理解してもらう意味も含め、木曾産檜の幼木三十本を奉納しました。この木は第六十二回遷宮において赤沢国有林にて御樋代木を伐採した三紐切保存会倉本豊氏により良質の物を取

り揃えて頂き、当日は子供達の手により宇治橋前より内宮神楽殿に運び神職の手により殿内に神楽奉奏中殿内に奉安されました。

夕食後特別に許された夜間参拝に向かいました。内宮神域は昼間の喧噪から静寂で神聖なる時を戻していました。神宮職員のご案内により御正宮と荒祭宮の参拝を行いました。子供達は少しばかり寒いようでしたが、静粛に参拝をして貴重な体験をする事が出来ました。

二日目は鳥羽水族館を見学して通常では陸路で帰路に着きますが、記念として本年は伊勢湾フェリーにて伊良湖へ渡り県内へと帰りました。

二十回目を記念した参宮団により委員会として様々な計画を立て無事終了することが出来ました。今後も歴代の活動をふまえ多くの子供達に神宮や神社を理解する場として子供参宮団を続けていかなければならないと思われました。

これからは本年度中に二十回に渡る参宮団の歴史や記録を取り纏めデータとして残しておく計画を進めて参りますので、当時の写真等記録をお持ちの関係者は委員会に御協力を御願致します。

②靖國神社参拝研修

終戦七十周年を迎え参加者四十五名にて八月六七日に行われました。静かな環境で護

国の英霊に心を込めて参拝を行いたいところでしたが、平和安全保障関連法案によって世情騒がしい中での事業となってしまうました。

今回は参加者が少なくバス一台での行程になりました。そのため県内各地参加者が揃うまでに約三時間も掛かってしまうことになり、さらに途中で事故渋滞に巻き込まれ大幅に予定が遅れてしまい靖國神社に大変迷惑を掛けることとなってしまいました。

バスの中では委員が講師となり靖國神社や大東亜戦争、特攻隊の講話やDVDを鑑



賞するなど参拝への理解を深めました。

到着すると徳川康久宮司より記録的な暑さの中の参拝に感謝の言葉を頂きました。本殿へと歩を進める中、心地良き涼風が吹き抜け、心静かに本殿の参拝を終えることが出来ました。

参拝後は遊就館へと進み松本聖吾権禰直の案内により館内見学しました。参加者の学生には熱心に話を聞くなどとても積極的な態度が見受けられ、時間をかけゆつくりと境内散策の時間が取れないのが残念でした。

本年は酷暑の中ででしたが誰も体調を崩す事無く全ての日程を終えることが出来ました。戦後七十年の今の平和が有るのはこの国を守った人々に依って出来ていると参加者の心に刻まれていることが感想文からも充分分かりました。

庁報編集委員会

編集委員長 瀧澤 基

庁報編集委員長を仰せ遣って早三年になるうとしています。この一月一日号が、今のメンバーの最後になります。平成二十四年八月一日号から始めてより六号となります。この間、神職という忙しい仕事柄、一人一人の使命を強くして時代の変遷の中、いかに神職をはじめ総代皆さま方に神

の活動状況と神道を幅広く知って頂くことと努力して参りました。

庁報の使命は、日本の歴史・伝統・文化の粋が神社の存在に集約されることから神社の現況と今後の社会の変化にも対応しながら、神社祭儀が厳修され、継承されることを伝えることです。このためにも、県下各神社の一万三千人からの総代・役員皆様の絶大なるご協力とご尽力を頂きたく申し上げます。

平成二十六年五月、民間有識者からなる「日本創生会議」によれば、人口減少により将来消滅する可能性がある自治体が、八九六市町村に上るとの試算をまとめました。長野県は、三四町村がその内にあり話題となりました。これは神社に於ける氏子の減少、神職の後継者不足の問題と直結しています。また、氏子世帯の減少の神社に於いては、総代のなり手が居ない、若衆のなり手が居ない、そこに産土神社への存在すらの理解、知識がない等々：上げれば切がないのですが、将来的にも神社祭儀が未来永劫に継承されることを願うところです。

戦後、高度成長を経た日本人の生活様式や価値観の変化には抗しがたいのが現実であり時代の変化に則しつつも神道文化を守り伝えるために、「庁報」が些かなりともお役に立てれば幸いです。

神社庁設立七十周年

記念事業について

長野県神社庁では明年の設立七十周年記念事業として明治期の神社関係資料のデータ化を行う事となりました。これは長野県立博物館に収蔵されている官制時代における神社管理関係資料より抜粋し、今回は信濃国神社明細帳（明治元年～明治四年）・神社取調書（明治二十八年～国幣の部（明治二十三年）と過去に周年事業として行った神社明細帳（明治十二年）のマイクロフィルムを電子データ化するものです。去る九月七日～十二日迄、委託会社である日本国土情報開発の技師三名により撮影作業が行われました。総数七千頁以上にも及ぶ膨大なものですが、無事撮影完了となりました。



神宮大麻曆頒布委員会事業報告

「神宮大麻の頒布は、本宗たる神宮の御神徳を宣揚し、神社神道の興隆に寄与する目的で、神社本庁が包括するすべての神社およびその関係者が一致して実効を上げなければならぬ事項とする。」

右は神社本庁内規の一つ「神宮大麻及び神宮曆頒布取扱要綱」の一文です。私達神社本庁包括の神社及び関係者に課せられた最重要使命の一つである、神宮大麻頒布について当委員会の事業概要を報告します。

一年目の平成二十五年度は、神宮式年遷宮の年であり御白石持行事や新穀感謝祭等、県内参加者が多数となる為、バス車内における啓発運動の実施、また従前より要望のあった神宮大麻用の神札袋の作成を実施しましたが、その成果は頒布体数二四一、六〇九体という前年に対し、一、五四六体の減体という結果になってしまいました。

続く二十六年度は神社本庁にて策定された新たな全国施策である「三カ年継続神宮大麻都市頒布向上計画」への対応であり、指定区域の選定及び受入交渉に当たった一年でした。

予め委員会にて候補となる地区を選定し、当該地区の氏神神社宮司を通じて受入の交渉を進めたが、総代や地元自治会に対

する事情説明に慎重を期した為、実際の活動迄には及ばず、年末に神宮大麻奉斎の啓発資料の提供に留まりました。

二十六年度の頒布成果は県内総数二三八、六三五体となり、前年比二、九七四体という近年に無い大減体という結果となっていました。

本施策に限らず従前より委員会や各支部等にて施策を実行した神社や地域は増体するが、それ以外の神社や地域に於いては、やはり氏子の高齢化や都市部等への転居に歯止めが掛からず減体が続く様でした。

今期最終年度である平成二十七年は、三カ年計画の指定地区が長野市篠ノ井瀬原田特地区にて、受入が正式に決定した為、事業の実行が可能となりました。

この瀬原田は、新興住宅地にて新規氏子世帯が増加している事から、去る十月十八日に瀬原田公民館にて、毎年神宮当局より御提供頂いている簡易神棚の未奉斎世帯への贈呈式と神宮大麻に関するDVD上映、また頒布委員会委員長と当該神社宮司による神宮大麻奉斎の意義説明など神宮大麻奉斎啓発活動を実施しました。

昨年よりの交渉の中で地区の総代及び役員の方々には、この度の三カ年計画成功の要点は、指定期間終了後を見据えた地元の総代や自治会役員の理解と協力であるとの点を深く御理解頂けた事もあり、積極的に

未奉斎世帯に対する神棚奉斎の勸奨や取り纏めなど種々御手配頂けた事もあり本活動にて既に地区では五〇体超の増体という成果を出しました。

以上が今期の委員会事業の概要とその成果であるが、減体傾向が続く非常に厳しい現状です。しかしながら、頒布事業はこの先も永く続く私達の務めである事は冒頭の内規の通りであります。既に現状に於いても皆様には大変御苦勞を戴いておりますが、何卒一世帯でも多く頒布が叶いますよう御尽力頂きたくお願い申し上げます。



御嶽山噴火並びに神城断層 被害報告と支援状況

御嶽神社 (黒沢口)

宮司 武居哲也

この度の御嶽山噴火にあたり、御心配を賜りました皆様にご紙面をおかりしまして、篤く御礼を申し上げます。

噴火の規制により、黒沢口(木曾町



竣工した八合中社全景

三岳)登山道は、本年七月一日によりやく八合目(標高二、四七〇m)までの入山が許可されました。これに先立ち八合目山小屋付近に、神社社務所(八合中社)を建設すべく準備を進めましたが、竣工は夏山終盤の八月中旬となりました。



一合目の噴火犠牲者の献花台

その後入山規制は徐々に緩和され、現在九合目上までとなりましたが、頂上付近(標高二、〇六七m)への立入は、未だ許可の目途が立っ

ていません。

噴火により不幸にも多くの方が亡くなられたことで、神社では恒例祭典に併せ、御霊慰めと御山の鎮静、復興の祈りを捧げているところです。

御嶽神社 (王滝口)

宮司 滝和人

本年六月には噴火警戒レベルが3から2(火口周辺規制)に引下げられました。

王滝口登山道については、頂上までの登山道中に避難場所がないということで、七合目田の原(自動車道終点)より約六百米先の還拝所までの入山規制となりました。

御嶽神社においては、噴火より一カ月の



慰霊祭を村民有志の主催により四合目のキャンプ場にて、また六カ月の慰霊祭を御嶽神社、王滝観光総合事務所の共催により松原運動公園献花台にて執り行いました。また、一年の追悼式は行政により松原運動公園にて、御遺族をはじめ関係者約三百名の参列のもと厳粛に行われました。

城嶺神社 (神城断層)

宮司 傘木則興

平成二十六年十一月二十二日、午後十時二十二分、県北部を震源とする震度六弱の白馬神城断層地震により広範囲の地域が被害を被った。

白馬村小谷村の被災者は緊急避難所を経て宿泊施設等の提供を受けるなど二転三転しながら仮設住宅の入居を待った。師走早々からの大雪の中で仮設住宅は年内に完成し、白馬村小谷村の被災者七十三世帯百十一人が仮の住まいに落ち着いた。

今回被害が集中した白馬村堀之内区では七十六世帯中五十六世帯が自宅へ戻れず、仮設住宅や親戚宅に身を寄せるなど、神社や公



民館も全壊して師走の大祓、神宮大麻頒布祭どころではなくなった。

家や神棚、日常の生活すら失った状況を思い、せめて簡易神棚と神宮大麻を仮の住居にお届けして新年を迎えていただき、心の安らぎと地域を繋ぐ支えの一助になればいいものかと被災地を伺い、連日の多忙な復興作業にもかかわらず区長の計らいで避難先の氏子へも届けていただけの事になった。

新年を迎えて堀之内地区の発案により、隣区の十日市場区と合同の「神城東部震災復興祈願」を新年祭に併せて両区役員も参列して一月十日に斎行した。尾根の高台の神社を仰ぎ見る参道入口の駐車場に幕舎を張り、倒壊した神社の間から回収したわずかな祭具も用いた。

新年度を控えて区の新役員と平成二十七年年度の祭典計画を協議した。社殿は失ったが祭典は可能な方法で行う方向を確認し、年俸は拠出できない惨状だが、祭典ごとの御礼を検討する申し出であった。

雪解けと共に倒壊家屋の撤去が始まった。ひと冬の雪の重さで大屋根を地面に伏せた姿に変わった城嶺神社も村の配慮によって住宅家屋に続いて撤去していただける事になった。

春祭、高台の社地を臨む県道沿いの大型駐車場に於いて「倒壊住宅撤去安全祈願祭」を併せて四月二十四日に斎行した。撤去作

業を請け負った十数社の業者代表も作業の手を止めて、村長を始め村関係者と共に参列して作業の安全を祈った。

当社の例祭は午前中に子供神輿が村中を巡り、公民館では氏子総出で自前の餅つきやそば打ちの準備を進め、住民老若男女が一堂に会して一合杵の樽酒も振る舞われて食事会が催される。午後は各組の幟と子供神輿が掛け声も元氣よく、区三役、神社総代、組長氏子等共に急勾配の参道を進む。祭典は子供等も参列して玉串を捧げている。

区民の一大行事である例大祭を何としても実現させ、地区の絆を繋ぎたい気持ちは皆同じであり、可能な方法と日時を模索し、九月十二日午前十時に日程を調整した。参道入口の駐車場に参列する役員の他、婦人の方々も協力いただいて御輿が準備された。いつもの法被姿で各組の幟と共に、今は更地になった神社跡地へ幾ヶ所も地割れしているなかの山道を登った。神事は本殿跡地に注連縄を張って祭場を設営し、宝物の御神鏡を大前に奉って斎行した。神事終了後に記念撮影を行い、子供神輿は里へ下りて村中を巡った。昼は通年そば打ちと餅つきだったが、道具は公民館と共

が、道具は公民館と共



に失ったために子供等も参加しやすい焼肉大会を企画し、村の除雪基地駐車場を借りて催された。

氏子が一堂に会する久しぶりの祭の宴に復興の鋭気を養い、例祭を無事斎行することができた。

以後の新嘗祭は大祓式を兼ねて計画し、新年祭も改めて日程を調整して公共の屋内施設で斎行する予定である。

地震から一夜明けて家財の散乱した自宅をそのままに、地域の復旧作業の混乱の時

に神社へ駆けより、床が落ちて反転した御本殿の御神体や倒壊した社殿の間から祭具を取り出し、吹き飛んだ小屋の屋根を活用してシートで包んだテントに応急に収納し、後日に里へ下ろして保管して下さりと、我家の片付けも後回しにして地域のために神社のために馳せ参じた皆様の共同体精神と敬神の念に敬意と感謝を申し上げ、一日も早い復興を祈念するものである。

尚、公民館は十月十二日に地鎮祭の運びとなり、神社の再建については公民館完成後に順次具体化させていく計画である。



神社のいるは⑤ 神棚の祀り方

教化部祭祀委員会 金田 伸由

◆神棚（宮形）の選び方

家庭において、神社から戴いて来たお神札（おふだ）を納めてお祀りするのが神棚（宮形）です。

神棚にはさまざまな種類がありますが、伊勢の神宮の御社殿の形式である神明造りが、一般的な形態です。他にも屋根を除いた箱宮形等があり、その中でも、お扉が一つの一社造、お扉が三つの三社造等があります。

神棚を選ぶ時に重要になるのが大きさです。部屋の広さに応じて棚板を設けますが、棚板の横幅奥行の寸法そして、天井までの高さを考慮して、神棚の大きさが決まります。

また、お供えや神立等を載せる場所も考慮しなければなりません。

◆神棚（宮形）を祀る場所

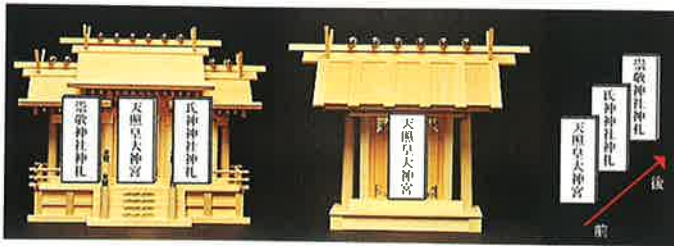
神棚は家の中の、最も清らかで明るく家族全員が親しみやすくお供えしたり、拝礼したりするのに都合の良い場所を選びます。目の高さ以上の高い所に、南向きあるいは東向きに設けます。上に部屋等があり、

人が神棚の上を歩く事のある場合は、是より上は何もないという意味合いの「雲」「天」「空」等の文字を白い紙（奉書紙など）に書いて神棚を祀った天井に貼ります。

◆お神札（おふだ）の祀り方

一社造の神棚には手前から、天照皇大神宮、氏神社、崇敬神社のお神札の順で重ねて納めます。

三社造の神棚は正面に天照皇大神宮、向かって右に氏神社、左には崇敬神社のお神札を納めます。氏神社とは、居住する地区の氏神様、崇敬神社とは、個人的に信仰する神様を言います。



◆神具の設置について

神棚には通常、米、酒、塩、水をお供えします。

米や塩は高杯（たかつき）又は皿（かわらけ）に、水は水器、酒は瓶子（へいし）という白色陶製の祭器具が用いられます。このほか、神棚の前に置く神鏡、榊を飾る神立、神前を明るくする神灯（ローソク立て）が用いられます。

お供えの仕方ですが、我国では古来中央である正中（せいちゆう）を尊ぶ為、神棚に対しても米を中央とし、酒、塩、水をお供えします。棚板の大きさによっては、これに限りません。季節の初物、戴き物なども、神棚にお供えしてから、家族で戴くように心がけたいものです。



目の大神のめぐみえてこそ

教化講師 山崎 洋文

日々、何気なく食している三度の食事。いつもあたりまえに「頂きます」「ごちそうさま」の感謝の言葉で食べています。これは一般の日本人がふつうにおこなっていることで、「頂きます」と唱える人々が、神道の信者であると自覚しているわけではありません。神道的感謝の考え方で、日本の美しい風習といえます。

神職の研修・修行の折は、食事の時には食前感謝、

たなつもの 百の木草も天照す

日の大神の恵みえてこそ「頂きます」

食後感謝

朝よひに物くふごとに豊受の

神の恵みを思え世の人「ごちそうさま」

と唱えます。これは本居宣長の「玉銚百種」から拾ったものですが、食前は内宮の天照大神、食後は外宮の豊受大神に感謝しています。

この食前感謝の解釈を、現代的に考えると太陽エネルギーによる炭素循環。つまり、太陽の光で緑色植物が葉緑体で光合成を行いデンプンをつくり、それを草食動物が食べ、それを肉食動物が食べるといふ食物連鎖で中学三年の理科で学びます。それは、生きとし生けるもの全てが、太陽エネルギーのお陰を被っているという意味なので

す。

たなつもの(稲)もすべての植物も太陽の力を得て生きている。従って、お米をはじめさまざまな物を食する我々は太陽の恵があつてこそ生きていられるのだ。だから感謝しなさいと解釈します。

この考え方は、実に科学的で、納得のいくものですが、神道的に考えたら、これだけでは足りないと思うのです。我々神職・神社総代ならば、稲と天照大神といえは、三大神勅を思い浮かべなければいけません。

三大神勅というのは、天孫瓊杵尊が高天原からこの中津国に降臨する際、天照大神から賜った言葉で、概略を記すと

①天壤無窮の神勅(万世一系の皇位が永遠に続くという予言)

②宝鏡奉斎の神勅(この鏡を天照大神として祭りなさい)伊勢神宮の起源

③斎庭稲穂の神勅(高天原の神田にある稲穂を瓊杵尊に任せる)

この③の神勅が、日本の米社会の起源となるのです。爾来、お米一筋の経済社会が動き出します。教科書に載っている物だけでも、銅鐸に載っている白杵の絵、高床倉庫(神明造り)、班田収

授、租庸調、墾田永年私財法、荘園、国司、地頭、地下中分、惣、太閤検地、石高制、新田開発、蔵屋敷、年貢、定免制、百姓一揆、地租改正、小作料、農地改革、食管制度、ちよつと思ひ浮かぶだけでも枚挙にいとまがありません。大名の大きさは知行の石高、つまり米のとれ高でランクされました。長い間、米をいかにしてたくさん収穫するかが、ほとんどの国民(百姓)の目的でありました。その起源を日本書紀では天孫降臨の時の神勅に上げているのです。

生活の目標が稲の豊作といつてよかつた日本人の歴史のなかで、重要な儀式が祈年祭と新嘗祭であることを思い出してください。日々の食事は米や食物の魂を体に取り入れる儀式だったのです。

ところで、食事への感謝を忘れない人は、その起源である天照大御神に感謝の気持ちを持っています。

この文を読んでいるかたがたは、神宮大麻を受けているかたがたですが、皆さんのまわりに、神宮大麻を受けていない人がいたら、神宮大麻を受け食事をするのと同様に、朝夕に、大御聖に感謝をすることを勧めましょう。

地球規模で人々とお付き合ひする時代です。日本人の心を継承する手段のひとつは、神宮大麻を奉斎することだと理解してもらいましょう。





寿ぎの内に皇紀二千六百七十六年の新春をお迎えし、ご皇室の安寧と国家の平穩をお慶び申し上げます。

日頃は、日本会議の諸活動にご理解とご協力を賜ります、県内神社界の皆様にも年頭にあたり深甚なる敬意と感謝を申し上げます。

日本会議の活動を通じて宮司様方と親交を深めさせていただく中で、神道についてご指導をいただき、日本精神の大元である神道に惹かれ祈ることの大切さを教えていただきました。

幾度か伊勢神宮をはじめ、各地の由緒あるお社を参拝させていただいたり、清冽な五十鈴川で「禊」も修めさせていただきました。

四十年余、儒学と仏教については同門・門下と学び親しんでおりますが、宗教は知識として学ぶだけでは無意味で、全身全霊を以って「信」と「行」に徹する事であるとの念いを深くし、人為の及ばざる存在を信じて俯仰する直き心が肝要と確信致しております。これも、宮司様方に接し感化共鳴させていただいたお陰様と感謝致してお

ります。

毎朝、「神棚拝詞」を奏上し、心願の誓詞を唱え、ご仏前での宗門の日課勤行を修し、清々しい心で一日の初めとさせていただきますいております。特に月の初めは神棚をお清めしお祈りをし、お賽銭代わりに千円をお上げします。年末には一万二千円になっておりますので、神宮大麻と崇敬各神社のお札をご下賜いただき、その他歳神様をお迎えするように供し残余は神道関係の書物を購入しております。

誇りある日本精神の再生を願っておりますので、より多くのご家庭に寛容と和の掬り所として神様をお祀りいただき、家庭の絆と地域連帯の紐帯としていただけたらと念じております。

今、社会は子殺し、親殺しという残忍な事件や、あの手この手で年寄りを騙し、老人の大切な老後資金をだまし取るという卑劣で浅ましい事件が多発し後を断ちません。安保法案であればどキャンペーンを張ったメディアも道徳・倫理に関する問題には自由を標榜する立場からか静かです。

本来、日本人は勤勉で忍耐強く誠実な民族です。戦後GHQの神道指令などにより、日本精神は歪められてしまいました。が、「日本の美しい心」を取り戻し、次代を担う若者が、自分の国に誇りを持って世界に羽ばたき出ることが出来るように、誇りある「ふる里づくり・国づくり」をしなければならぬと考えます。寛容と共存共栄、和の心が日本精神の「基」であります。

伊勢志摩サミットで大神宮を訪れる、世界の指導者も多いと思っておりますので、神道と日本人の素晴らしさにふれていただきたいと思います。神道の「和」の光で世界を遍く照らす時代の到来を願っております。

新年も神様のご加護を久しく賜れますよう、神社界の皆様のご格別なるご指導とご協力をお願い申し上げます。各位の弥栄をご祈念申し上げます。



感謝のこころ
幸せな気持ち

神宮大麻暦頒布始奉告祭齋行

平成二十七年九月二十九日、神社庁神殿に於いて神宮大麻頒布始奉告祭を齋行。左記の頒布優秀支部及び優良頒布奉仕者に対する表彰が行われた。(敬称略)

神宮大宮司表彰

頒布優秀支部

上伊那支部

頒布優良奉仕者

南安曇支部

白狐神社宮司

山崎佳宏

木曾支部

御嶽神社責任役員 浦澤英一

神社庁長表彰

神職

松塩筑支部

野々宮社禰宜

中村敏男

南安曇支部

穂高神社権禰宜

小平和彦

総代

松塩筑支部

深志神社責任役員

武居喜美雄

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔



澁川 慧伍 二十八歳
諏訪大社 権禰宜
諏訪支部

平成二十五年より諏訪大社に奉職させて

頂き、この度、平成二十七年九月一日付を以て権禰宜を拜命致しました。

神職を志してから日が浅く知識も経験も少ない身ではありますが、自分の目指す神職像を心に留め日々の神明奉仕に励み、古来の文化や習慣を絶やさぬよう日々精進する所存です。

至らない点も多々あるかとは存じますが、今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。



小山 亨 二十七歳
諏訪大社 権禰宜
諏訪支部

神社本庁の規程にもありますように、権禰宜以上から神職として認められるわけですが、今のところ「名前」だけ一人前になったのかな、という気持ちです。これからどれだけ「中身」のある神主として成長できるのか、それは日々の奉仕の中で如何に真剣に神様と向き合っていくのかという点にかかっていると思います。一日一日を「神主」として過ごせるよう努力する所存です。

寄附者顕彰 (平成27年7月)

各神社からの申請により、下記金品の寄附者に対し感謝状が授与されました。
赤誠の真心を奉納いただいた皆様に改めて感謝の意を表します。

(支部名・神社名・鎮座地・授与の理由・氏名)

敬称略

長野県神社庁長感謝状 参拾万円以上寄附

〔上伊那支部〕

日方磐神社 (飯島町)

多額の浄財

下平文昭

下平照代

諏訪神社 (宮田村)

大提灯一対

古藤宗志

〔松塩筑支部〕

四柱神社 (松本市)

多額の浄財

齊藤茂行 / 百瀬賢志 / 岩淵眞美 / 大澤明

三 / 池田建設(株)松本営業所 / サンリン株式会社 / キッセイ薬品工業株式会社 / 草

間秀 / 平林輝好 / 鈴木一巳 / 久保田嘉信

／ 中信街商組合 / 西堀恒司 / 株式会社田

立屋 / 榊山口石材 / 株式会社伊藤建築設

計事務所

市野川神社 (麻績村) 多額の浄財

若林茂孝

市川 久

桐山富士雄

〔大北支部〕

若一王子神社 (大町市)

輦車庫改修工事に多額の浄財

(株)胡桃沢組代表取締役社長 胡桃沢市造

八幡神社(池田町)

全面改築工事に多額の浄財

松田 忠

〔下高井支部〕

大熊神社(中野市)

玉垣建設に多額の浄財

有限会社 萩原きのこ園

大熊神社(中野市)

玉垣建設に多額の浄財

柴本秀子

〔飯水支部〕

諏訪社(中野市)

収蔵庫新築に多額の浄財

小林良成

辞令 平成27年7月1日

神社名	本兼	職務	氏名	月日	支部名
昇級・神職身分二級上					
諏訪大社	宮司		北島 和孝	九十	諏訪
戸隠神社	権宜		水野 邦樹	九十	上水内
昇級・神職身分二級					
諏訪大社	権備宜		桃井 義弘	九十	諏訪
諏訪大社	権備宜		小林 義悟	九十	諏訪
深志神社	権備宜		小林 義幸	九十	松塩筑
八幡宮	宮司		林 千足	九十	松塩筑
小坂神社	宮司		片山 光一	九十	松塩筑
戸隠神社	権備宜		楠川 裕一	九十	上水内
任命					
南方神社宮司神社	兼 宮司		松倉 克幸	八一	諏訪
子之神社	兼 宮司		有賀 寛典	八一	諏訪
三輪神社					
智徳神社					
子之社	兼 宮司		久保田正彦	八一	諏訪
胡桃澤神社					
高井神社					
大星社					
清水神社	兼 権宜		竹内千代隆	九十五	更級
昌千神社					
自在神社					
村上御厨神社					
村上神社					
村上大國魂社					

會地早雄神社					
實照神社					
宇佐八幡宮					
養養社					
養養社					
速妻彦鳴神社					
養養社					
菅原神社	兼 宮司		野神 善造	十五	飯伊
白諏神社					
諏訪神社					
諏訪神社					
長峯神社					
都波岐神社	兼 権備宜		小六 真希	十一	松塩筑
千鹿頭神社	兼 宮司		上藤 雅彦	十五	松塩筑
熊野出速雄神社	兼 宮司		武藤 美登	十二	長野
大宮神社					
源閨神社					
金刀比羅神社					
藤澤秋神社					
諏訪社					
懐古神社	兼 宮司		宮澤 和彦	十二	北佐久
布制神社					
北原神社					
水鏡斗宮神社					
岡田伊勢社					
更級斗女神社					
水鏡神社					
櫻田神社					
布施神社					
伊勢社					
八幡社					
諏訪神社					
水野田神社					
水鏡諏訪神社					
伊勢社					
於佐加神社	兼 宮司		牟禮 仁	十二	松塩筑
富士淺間神社					
任命					
諏訪大社	本 権備宜		原 弘昌	九二	諏訪
諏訪大社	本 権備宜		宇屋 久	九二	諏訪
諏訪大社	本 権備宜		村上 益弘	九二	諏訪
生高足島神社	本 高宮代務		池内 宣裕	十二	上小
川合神社	本 宮司		宮澤 和彦	十二	更級
熊野出速雄神社	本 権備宜		武藤 信子	十五	長野
新任					
諏訪大社	権備宜		遠川 慧伍	九一	諏訪
諏訪大社	権備宜		小山 亨	九一	諏訪

酒玉神社	本務	權宜				竹内千代隆	九十五	更級
十五社御社宮司社より	權宜		松倉 克幸	九一	諏訪			
熊野出速雄神社	權宜		水科 美香	十二	上小			
南方御社宮司神社	兼 宮司		原 弘昌	七三	諏訪			
子之神社								
三輪神社								
習焼神社								
子之社								
胡桃澤神社								
葛井神社								
大星社								
宮原神社	兼 宮司		座光寺永子	十四	飯伊			
諏訪神社	兼 宮司代務		唐沢 康夫	十四	飯伊			
諏訪神社								
長峯神社								
大宮神社	兼 宮司		武藤 登	十二	長野			
源閨神社								
金刀比羅神社								
藤澤秋神社								
諏訪社								
懐古神社	兼 宮司		宮澤 定彦	十三	北佐久			
布制神社								
北原神社								
水鏡斗宮神社								
岡田伊勢社								
更級斗女神社								
水鏡神社								
櫻田神社								
布施神社								
伊勢社								
八幡社								
諏訪神社								
水野田神社								
水鏡諏訪神社								
伊勢社								
於佐加神社								
退職								
白諏神社	宮司代務者		唐沢 康夫	十四	飯伊			
熊野出速雄神社	宮司		武藤 登	十二	長野			
熊野出速雄神社	職名							
秋葉神社	階位・身分		工藤 種宣	八九	上小			
豊養神社	正階二級		全禮 弘	十三	松塩筑			

平成26年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	幣 帛 幣 饌 料	753,200	750,000	3,200	神社本庁より
2	交 付 金	102,358,000	102,358,000	0	本庁交付金
3	負 担 金	31,745,000	32,105,000	△360,000	支部負担金、神社負担金、神職負担金、特別寄贈金
4	協 賛 金	6,210,000	6,170,000	40,000	特別協賛金、寄付金
5	財 産 収 入	47,250	50,000	△2,750	財産利子配当金
6	補 助 金	120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各 種 証 明 料	2,803,150	2,920,000	△116,850	神職任命・登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸 収 入	2,681,299	2,500,000	181,299	賽物収入、雑収入
9	管 理 費 収 入	558,180	550,000	8,180	庁舎管理費収入、関係団体管理費収入
10	過 年 度 収 入	230,000	200,000	30,000	
11	繰 越 金	22,557,504	18,937,000	3,620,504	
	合 計	170,063,583	166,660,000	3,403,583	

歳出の部

(単位：円)

款	費 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	神宮神徳宣揚費交付金	48,447,033	48,447,033	0	支部を通じて各神社へ
2	幣 帛 幣 饌 料	8,020,580	8,250,000	△229,420	別表及特別控社、本務・業務控社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会 議 費	4,178,817	4,500,000	△321,183	会議旅費、諸費
4	庁 務 費	43,326,188	43,950,000	△623,812	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給与及び福利厚生費、需要費
5	負 担 金	25,906,320	25,906,320	0	神社本庁へ
6	事 業 費	15,725,398	17,966,000	△2,240,602	大麻関係費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費等
7	研 修 諸 費	114,883	200,000	△85,117	神社庁研修諸費
8	庁 舎 維 持 費	553,740	1,160,000	△606,260	修繕費、設備費、火災保険費
9	交 付 金	3,178,510	3,400,000	△221,490	神職会、総代会、災害慰藉特別会計各交付金
10	積 立 金	4,000,000	4,000,000	0	基本金積立金、役員退職積立金、五県連合総会積立金、神道品揚資金積立金等
11	補 助 金	50,000	50,000	0	時局対策費
12	予 備 費	171,000	8,830,647	△8,659,647	171,000円を5款1項本庁負担金へ充当
	合 計	153,672,469	166,660,000	△12,987,531	

平成26年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	負 担 金	3,365,000	3,330,000	35,000	支部負担金、神職掛金
2	繰 入 金	700,000	700,000	0	繰入金
3	本 庁 見 舞 金	110,000	1,000	109,000	
4	雑 収 入	1,574	1,000	574	雑収入
5	繰 越 金	7,058,312	1,202,000	5,856,312	繰越金
	合 計	11,234,886	5,234,000	6,000,886	

歳出の部

(単位：円)

款	費 目	決算額	予算額	比較増減△	附記説明
1	災 害 慰 藉 費	1,023,900	2,986,000	△1,962,100	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神 職 掛 金	2,165,000	2,130,000	35,000	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本 庁 災 害 慰 藉 費	294,450	58,000	236,450	災害対策資金
4	運 営 費	1,728	60,000	△58,272	事務費、旅費、雑費
	合 計	3,485,078	5,234,000	△1,748,922	



謹 賀 新 年



長野県女子神職会	長野県神道青年会	長野県敬神婦人連合会	長野県本部 神道政治連盟	長野県神社総代会	長野県神社庁
宮司 奥谷 一同 他 職員 一 同文 長野県護國神社	松本市美須々六番一号 宮司 小平 弘起 他 職員 一 同起 穂高神社	宮司 藤井 茂信 他 職員 一 同信 戸隠神社	宮司 池内 宣裕 他 職員 一 同裕 生島足島神社	諏訪大社	
宮司 竹内 直彦 大町市大字大町二〇九七 若一王子神社	宮司 堀内 潔人 他 職員 一 同人 武水別神社	宮司 宮坂 清 諏訪市茶臼山鎮座 手長神社	宮司 遠藤 久芳 他 職員 一 同芳 深志神社	松本市 宮司 宮坂 信廣 他 職員 一 同廣 http://www.go.tvm.ne.jp/~yohashira 四柱神社	
宮司 井出 行則 總代会長 水澤 重雄 佐久市田口鎮座 新海三社神社	佐久総社 宮司 市原 貴美雄 職員總代一同 富士山稻荷神社	飯田市浜井町 破魔射場鎮座 宮司 水澤 光男 祢宜 水澤 貴人 總代会長 土屋 一文 熊野皇大神社	輕井沢町峠鎮座 宮司 水澤 光男 名譽宮司 滝 重則 宮司 滝 和人 御嶽神社	木曾總社 宮司 武居 哲也 御嶽神社	



謹 賀 新 年



<p>飯山市小菅の里鎮座 小 菅 神 社 宮 司 鷲 尾 隆 男 總代會長 真 島 昭 一</p>	<p>上田市 眞田三代崇敬社 大 星 神 社 宮 司 関 口 守 和 祢 宜 工 藤 康 高 總代會長 横 沢 昇</p>	<p>上田市常田鎮座 科 野 大 宮 社 宮 司 今 井 正 昭 總代會長 伊 藤 一 夫</p>	<p>輕井沢町中輕井沢鎮座 長 倉 神 社 宮 司 水 澤 光 男 祢 宜 水 澤 貴 文 總代會長 川 波 義 忠</p>	<p>輕井沢町旧輕井沢鎮座 諏 訪 神 社 宮 司 水 澤 光 男 祢 宜 水 澤 貴 文 總代會長 大 谷 次 司</p>
<p>上伊那郡箕輪町三日町 御 射 山 三 社 宮 司 唐 沢 克 忠 祢 宜 伊 藤 光 要 總代會長 伊 藤 光 要</p>	<p>大 御 食 神 社 宮 司 富 岡 武 彦 祢 宜 白 鳥 操 子 明 權 祢 宜 白 鳥 操 子 明 權 祢 宜 富 岡 清 彦 總代會長 赤 須 弘 侑</p>	<p>上伊那郡辰野町小野 矢 彦 神 社 宮 司 立 澤 俊 輔 祢 宜 立 澤 俊 輔 總代會長 中 村 脩 司</p>	<p>上伊那郡飯島町 梅 戸 神 社 宮 司 今 井 理 也 祢 宜 茅 野 理 也 權 祢 宜 今 井 理 也 總代會長 井 野 理 也</p>	<p>上伊那郡辰野町 三 輪 神 社 宮 司 矢 島 正 稔 高代務者 矢 島 正 稔</p>
<p>松本市梓川梓鎮座 大 宮 熱 田 神 社 宮 司 山 田 充 春</p>	<p>あづみ野 住 吉 神 社 宮 司 飯 田 泰 之 學 饗 食 塚 原 尚</p>	<p>國選定重要建造物群宿場町 中山道奈良井宿 鎮 座 鎮 神 社 宮 司 巢 山 清 宏 總代會長 永 井 康 宏</p>	<p>國選定重要建造物群漆職人街 木曾平沢鎮座 諏 訪 神 社 宮 司 巢 山 數 彦 總代會長 本 山 俊 之</p>	<p>木曾郡木曾町福島鎮座 水 無 神 社 名 譽 宮 司 宮 田 正 士 宮 司 宮 田 利 彦 祢 宜 宮 田 伊 織</p>
<p>長野市三輪鎮座 美 和 神 社 宮 司 齋 藤 吉 睦 權 祢 宜 矢 澤 龍 一</p>	<p>長野市東町鎮座 武 井 神 社 宮 司 齋 藤 吉 睦</p>	<p>木曾郡木曾町開田高原西野 八 幡 宮 宮 司 神 田 田 幸 乃 祢 宜 神 田 田 幸 乃</p>	<p>七二会鎮座 式 内 社 守 田 神 社 宮 司 矢 澤 龍 一 主任總代 北 島 好 貢 會 計 成 田 好 雄</p>	<p>上水内郡小川村小根山鎮座 小 川 神 社 宮 司 宮 下 俊 樹 祢 宜 太 田 陽 一 總代會長 增 田 幸 成</p>



謹 賀 新 年



<p>仁科神明宮 大町市社宮本</p> <p>宮司 松井秀吾 総代会長 松田一穂</p>	<p>飯田市八幡町一九九九 鳩ヶ嶺八幡宮 (重要文化財菅田別尊神像)</p> <p>宮司 伊原義雄 氏子総代長 井上久美</p>	<p>岡谷市小井川鎮座 小井川賀茂神社</p> <p>宮司 有賀寛典</p>	<p>長野市松代町鎮座 象山神社</p> <p>宮司 瀧澤 けい子 権祢宜 瀧澤 理恵</p>	<p>長野市城山鎮座 健御名方富命彦神別神社</p> <p>宮司 齋藤吉睦</p>
<p>三嶽神社 牧子</p> <p>宮司 宇治橋 邦彦 権祢宜 宇治橋 彦彦</p>	<p>塩尻市中西條鎮座 箕輪南宮神社</p> <p>宮司 唐沢 克忠 祢宜 唐沢 光忠 総代会長 高橋 英行 箕輪町大字中箕輪木下</p>	<p>安曇野市穂高有明字宮城 彫刻で名高き裕明門 有明山神社</p> <p>宮司 等々力 満</p>	<p>長野市岩石町鎮座 えびすの神 西宮神社</p> <p>宮司 丸山 肇 役員総代 一同</p>	<p>伊那市荒井区 荒井神社</p> <p>宮司 唐沢 克忠 祢宜 唐沢 光忠 総代会長 久保村 友保</p>
<p>上伊那郡南箕輪村 殿村八幡宮</p> <p>宮司 唐沢 克忠 祢宜 唐沢 光忠 総代会長 清水 良人</p>	<p>長野市大町鎮座 http://sazujinai.jp/ 長沼神社</p> <p>宮司 長沼 忠行 祢宜 長沼 房一 権祢宜 長沼 誠一</p>	<p>駒ヶ根市赤穂鎮座 大宮五十鈴神社</p> <p>宮司 白鳥 俊明 祢宜 白鳥 操子</p>	<p>伊那市御園区鎮座 白山神社</p> <p>宮司 伊藤 光宣</p>	<p>塩尻市北小野鎮座 小野神社</p> <p>宮司 宇治橋 邦彦 祢宜 宇治橋 健吾 総代会長 横沢 吾淳</p>
<p>佐久市鎮座 平賀神社</p> <p>宮司 小間澤 貴肇 祢宜 小間澤 貴 総代会長 高橋 登子</p>	<p>佐久市白田鎮座 稲荷神社</p> <p>宮司 伴野 健一 総代会長 井出 徳三</p>	<p>安曇野市豊科南穂高 洲波神社</p> <p>宮司 宮澤 民雄</p>	<p>東筑摩郡麻績村麻績座 重要文化財 麻績神明宮</p> <p>宮司 山崎 洋文 役員会長 依田 政人</p>	<p>長野市松代町皆神山 熊野出速雄神社 (昔神社)</p> <p>宮司 武藤 美登 外職員 一同</p>



謹 賀 新 年



<p>千曲市若宮鎮座 佐良志奈神社 宮司 豊城憲和 主任総代 豊城巖 外役員 一同</p>	<p>瀧澤 けい子 長野県敬神婦人連合会会長 柴神社宮司 長野県女子神職会顧問 全国女子神職協議会参与</p>	<p>神社庁松塩筑支部 支部長 宮坂信廣 副支部長 山崎洋文 副支部長 大和田賢一</p>	<p>木曾郡上松町 宮司 徳原正三 駒嶽神社 宮司 徳原正三</p>	<p>木曾郡上松町 諏訪神社 宮司 徳原正三</p>
<p>永持 はな子 長野県女子神職会顧問 神明宮宮司</p>	<p>湯福神社 宮司 齋藤安彦 祢宜齋藤英之</p>	<p>八王子神社 宮司 平林秀文 権祢宜 横澤敬太郎 長野市箱清水鎮座</p>	<p>刈谷澤神明宮 宮司 山崎洋文 総代会長 神田林政穂 大町市常盤西山鎮座</p>	<p>上高井郡小布施町鎮座 逢瀬神社 宮司 久保田守彦 東筑摩郡筑北村坂北鎮座 無形文化財お田植祭り</p>
<p>五宮神社 宮司 高橋邦衛 木曾郡南木曾町田立鎮座 県文化財花馬祭り</p>	<p>式内 皇足穂命神社 諏訪社合殿 宮司 宮下俊樹 総代長 宮下甲</p>	<p>鹽竈神社 宮司 大澤明三 祢宜 大澤節子 総代会長 藤森昭三 長野市中条鎮座</p>	<p>健御名方富命彦神別神社 宮司 高橋勸 祢宜 高橋穰 総代会長 伊澤春一 奥州一之宮鹽竈神社御分社</p>	<p>飯田市山本鎮座 七久里神社 宮司 近藤政彰 飯山市五束鎮座 (国重文若宮八幡社)</p>

大好評につき本年度も開催決定!

「第21回 子供参宮団」

実施期間 平成28年3月28~29日(1泊2日)

伊勢の神宮と ナガシマスパーランドの旅

- *日本の最高神「天照皇大御神」様をお祀りしている伊勢の神宮のお参りと、舞女さんの「舞」が見学できるよ。
- *伊勢湾を臨む、西日本一のアミューズメントエリア「ナガスパ!」世界最大級の木製コースター「ホワイトサイクロン」など絶叫マシンからファミリー系ほのほのマシンまで、アトラクション満載のフリーパスポートで思いっきり遊ぼう!

日 程 参加者には詳細パンフレットをお送りします。

- 28日 (6:00~8:00) 県内各地を出発
12:30 昼食(車内弁当)
14:00 内宮 御垣内特別参拝・御神楽奉納・写真撮影
16:30 おかげ横丁 おはらい町散策 お買い物
17:30 神宮会館
夕食・講話・まとめ・宿泊
- 29日 7:00 神宮会館 朝食
8:20 神宮会館発
8:35 外宮自由参拝
10:50 ナガシマスパーランド 着 昼食
15:30 同所発 夕食(車内軽食)
(19:00~20:00) 県内各地に帰着

*都合により行程が変更になる場合がございます。

- 《開催日》 平成28年3月28日(月)~29日(火)
- 《対象》 中学生以下(小学3年生以下は保護者同伴にて参加いただけます)
- 《募集人員》 120名
- 《旅行代金》 子供1名 18,000円 同伴保護者1名 20,000円
往復バス代・1泊5食・参拝玉串料・施設入場料など
全て含みます。
- 《食事》 朝1回、昼2回、夜2回
- 《宿泊》 神宮会館(伊勢神宮崇敬会が運営するホテルです)
伊勢市宇治中之切町152 電話 0596(24)7162
- 《申込期限》 平成28年1月31日(第一次締切)
平成28年2月20日(最終締切)
(定員になり次第締切らせていただきますので
お早めどうぞ)
- 《申込先》 地元の神職にお申し込み下さい。
尚、集合場所等詳細は平成28年3月15日(火)に
発送します。

保護者の皆様へ:
伊勢の神宮は日本人の大御祖神である
天照皇大御神(内宮)と、食物を司る
豊受大神(外宮)を中心とする、二千年の歴史と、
特別な由緒をもつ御社です。
この旅行では、神宮への参拝を通じて、古来より
日本人が培ってきた「感謝」と「真心」を体感し、日
本の文化に触れる事を目的としております。
全行程に神社庁教化部の神職が同行し、楽しく
意義のある旅行に致します。
どうか御安心の上御参加戴き、お子さまの良き
思い出として戴ければと存じます。

主催・長野県神社庁教化部
青少年対策推進委員会

春休みの楽しい
思い出をつくろう!

